

よろずは

平成二十七年

八月号

歌碑めぐり 13

今回ご紹介する歌碑は、『万葉集』のなかで最北の地を詠んだとき
れる歌を刻んだものです。揮毫者は山田孝雄氏です。その歌とは、

天皇の御代栄えむと東なる陸奥山に黄金花咲く

(天皇の御代が繁栄するだろうとて、東国の陸奥の山に黄金の
花が咲くことよ。)

卷十八の四〇九七

というもので、「陸奥国より金を出せる詔書を賀ける歌」のひとつ
で、天平感宝元年(≡天平二十一年/七四九)に大伴家持が越中国で
つくったと『万葉集』に記されています。この年、東大寺大仏造営のた
めの金が黄金山一帯から産出し、献上されました。「続日本紀」に
は、二月二二日に陸奥国が初めて黄金を奉ったという記事や、それ
を非常に喜んだ聖武天皇の詔などの関連記事が見られます。

金が産出した地は現在、黄金山産金遺跡として国史跡に指定さ
れています。その中心部にあるのが延喜式内社の黄金山神社で、歌
碑はこの神社の境内に建てられています。

【万葉古代学係】



(宮城県涌谷町)

【碑銘の翻刻】

※碑文にルビはありません

須賣呂伎能 御代佐可延牟等
阿頭麻奈流 美知能久夜麻爾

金花佐久

タイトルの「よろずは」は、「万葉」
を訓読みしたものです。